

科目名	英語 II	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
英文表記	English II	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中		
ふりがな	はんだ さちこ	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	半田 幸子	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	高校までに習った英文法や語彙を踏まえて、さらに日常生活で自然に話される口語表現を聞き取り、理解することができるようになる。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. アメリカの日常生活でよく使われるイディオムや慣用表現などの口語表現を理解することができる。 2. 英語を主要言語とする映画を英語の字幕付きで見て、大まかな内容を理解することができる。 3. 時代的、文化的、社会的背景の違いによって使われる英語表現にも違いがあることを知る。				
授業概要	この授業では、前期および後期でそれぞれ一本の映画を取り上げ、作品中のセリフを通して、聞き取りや読解をしていきます。前期では、映画史に残る傑作SF コメディ、マイケル・J・フォックス主演の映画『バック・トゥー・ザ・フューチャー』 <i>Back to the Future</i> (1985 年) を取り上げ、後期では、空港を舞台に起きた実話に基づくコメディドラマ、トム・ハンクス主演の映画『ターミナル』 <i>Terminal</i> (2004 年) を取り上げます。時代や舞台の異なる二つの作品を通して、さまざまな慣用表現を学びます。				
授業計画 (以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の学習状況によっては変更することがあります。)					
第 1 回	ガイダンス (授業概要説明)・作品鑑賞 (前半)		第 17 回	前期のおさらい・作品鑑賞 (前半)	
第 2 回	フィードバック・作品鑑賞 (後半)		第 18 回	フィードバック・作品鑑賞 (後半)	
第 3 回	<i>Back to the Future</i> (1985) ① (At Doc's Place)		第 19 回	<i>Terminal</i> (2004) ① (At the Terminal)	
第 4 回	<i>Back to the Future</i> (1985) ② (At Doc's Place 2)		第 20 回	<i>Terminal</i> (2004) ② (At Dixon's Office)	
第 5 回	<i>Back to the Future</i> (1985) ③ (At School)		第 21 回	<i>Terminal</i> (2004) ③ (Released to the Terminal)	
第 6 回	小テスト❶ (範囲：BTF ① - ③)		第 22 回	小テスト❶ (範囲：Terminal ① - ③)	
第 7 回	<i>Back to the Future</i> (1985) ④ (After School)		第 23 回	<i>Terminal</i> (2004) ④ (Navorski Through the Camera)	
第 8 回	<i>Back to the Future</i> (1985) ⑤ (At Café)		第 24 回	<i>Terminal</i> (2004) ⑤ (As a Translator)	
第 9 回	<i>BTF</i> (1985) ⑥ (Meeting with Young Father)		第 25 回	<i>Terminal</i> (2004) ⑥ (As a Translator 2)	
第 10 回	小テスト❷ (範囲：BTF ④ - ⑥)		第 26 回	小テスト❷ (範囲：Terminal ④ - ⑥)	
第 11 回	<i>BTF</i> (1985) ⑦ (Erased from Existence?)		第 27 回	<i>Terminal</i> (2004) ⑦ (Dixon and Amelia)	
第 12 回	<i>Back to the Future</i> (1985) ⑧ (With Doc.)		第 28 回	<i>Terminal</i> (2004) ⑧ (Conversation with Amelia)	
第 13 回	<i>BTF</i> (1985) ⑨ (Doc. Came Back from Future)		第 29 回	<i>Terminal</i> (2004) ⑨ (Farewell at the Gate)	
第 14 回	小テスト❸ (範囲：BTF ⑦ - ⑨)		第 30 回	小テスト❸ (範囲：Terminal ⑦ - ⑨)	
第 15 回	おさらい		第 31 回	おさらい	
第 16 回	前期定期試験		第 32 回	後期定期試験	
授業時間外の学習	・授業後に、授業で取り組んだワークシートを読み直し、不明点なくなるよう、しっかりと復習すること。(1 時間程度) ・授業後に、授業で取り組んだリスニング箇所を確認し (ポータルサイトに動画の URL を配布します)、音読とリスニングを繰り返し行うこと。(1.5 時間程度) ・日々、できるだけ時間を作って、音楽、映画、テレビドラマ、ニュース、ラジオ、新聞、雑誌等で英語に触れるようにしてください。(毎日 0.5-1 時間程度)				

履修条件 受講のルール	<受講上のルール> ・毎回、辞書（紙媒体・電子辞書どちらでも可）を持参してください。 ・スマートホンの翻訳アプリの使用やネット検索は認めません。 ・授業後の復習の習慣を身につけてください。 ・授業中の私語など、周囲の迷惑になる行為は謹んでください。
テキスト	授業中に資料を配布します。
参考文献・資料	・映画『バック・トゥー・ザ・フューチャー』（1999 年） ・映画『ターミナル』（2004 年） ・山口美知代編著『世界の英語を映画で学ぶ』松柏社、2013 年。 ほか、必要に応じて、適宜、授業の中で紹介します。
成績評価の方法	【授業への取り組み（35%）、毎回のコメントシート（5%）、小テスト（10%）、定期試験（50%）】 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が十分であることを確認するため、学期ごとに3回の小テストを行います。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日 15:00～ ※これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	まずは映画を楽しみましょう。何事に対しても苦手意識を持つと、その対象となるものと自分との間に壁ができ、対象となるものを受け入れることは叶わなくなります。反対に、好きであれば苦痛に感じません。英語学習も例外ではありません。外国語習得には忍耐はつきものですが、好きになれば、日々学ぶ習慣が身につく、日々学ぶ習慣が身につけば、英語も自然に上達していきます。 また、英語の授業は、語学力の向上に限ったものではありません。英語を学習することで言語の構造や文化的思考の違いを知ること、視野を広げる上でとても重要な学びです。英語が好きな人ももちろん、ぜひ、心をオープンにして多角的な視点から英語を学びましょう。

科目名	英語 II (教職履修者クラス)	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			経済学科	■教職必修	□選択
			学科	□必修	□選択
英文表記	English II	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中		
ふりがな	おざき かな	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	尾崎 加奈	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	教員採用試験の一般教養として必要な、基礎英文法・語句・ことわざ等の理解を深め、英語に関する知識を習得する。また、英文の構造を理解し、的確に文を組み立てることが出来るようになる。さらに、平易な英語表現を用いて自分自身について話すことができるようになる。				
到達目標	この授業では、次のような知識・能力を修得することができます。 1. 基本英文法を正確に理解することができる。 2. 正しい発音で英文を音読することができる。 3. 簡単な英語表現を用いて会話をすることができる。				
授業概要	本講義では、海外でのインターンシップを題材とした教科書を用い、基礎文法を確認しながら英語を学びます。毎回、授業のはじめに新出単語と英文法の復習テストを行います。また、教員採用試験の英語面接に備え、身近なテーマについて自由作文をし、ペアやグループで会話練習に取り組みます。最後に、前後期1回ずつ、各自テーマを決めてプレゼンテーション（口頭発表）を行います。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション、自己紹介をする1		第17回	過去形の復習	
第2回	現在形		第18回	未来形	
第3回	自己紹介をする2		第19回	予定を述べる	
第4回	代名詞、他者について説明する		第20回	比較級・最上級	
第5回	前置詞		第21回	好みを述べる	
第6回	スケジュールを述べる		第22回	助動詞	
第7回	過去形、Mind map 1		第23回	ルールについて述べる、Mind map 1	
第8回	週末にしたことを述べる、Mind map 2		第24回	現在完了形、Mind map 2	
第9回	可算・不可算名詞、Mind map 3		第25回	経験について述べる、Mind map 3	
第10回	注文をする、Draft 1		第26回	関係詞、Draft 1	
第11回	進行形、Draft 2		第27回	人物を描写する、Draft 2	
第12回	体調について述べる、Draft 3		第28回	受動態、Draft 3	
第13回	WH 疑問文、Peer-reviewing		第29回	映画や本について描写する、Peer-reviewing	
第14回	他者について描写する、Presentation 1		第30回	接続詞、Presentation 2	
第15回	動名詞・不定詞、好き嫌いを述べる		第31回	習慣について述べる	
第16回	前期定期試験		第32回	後期定期試験	
授業時間外の学習	新出単語の学習（0.5 時間）、基本文法の例文の復習（1.5 時間）。				
履修条件 受講のルール	・教科書を必ず購入してください。 ・適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーしてください。				

テキスト	ENGLISH MISSIONS! <i>basic</i> , KINSEIDO (2019)
参考文献・資料	・『総合英語 Forest』石黒昭博、桐原書店 (2013) ・『総合英語 Evergreen』川崎 芳人 他、いいずな書店 (2017) ・NHK WORLD JAPAN https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ ・秋田県公立学校教員採用試験 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/33277
成績評価の方法	【小テスト (30%)、プレゼンテーション (30%)、定期試験 (40%)】 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・プレゼンテーションの内容や日程の詳細は授業内と掲示板（ポータルサイトを含む）で指示します。
オフィスアワー	個別に対応しますので、事前に予約をしてください。
成績評価の基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	教員採用の教養試験の対策としてはもちろんのこと、英文法を復習したい、英語で話せる内容を増やしたいなど、皆さんが目標を持って受講することを期待しています。学生同士で話したり聞いたりする機会がたくさんありますので、積極的に授業に参加しましょう。